

スノースポーツ集中実技(専門野外教育Ⅳ・雪上実習)における授業評価

Student Evaluation in the Snow Sports Intensive Course

川 田 儀 博*, 千 足 耕 一**

Yoshihiro KAWADA * and Kouichi CHIASHI**

国士舘大学体育研究所報抜刷
第19巻 p. 1～ p. 11, 2000

スノースポーツ集中実技(専門野外教育Ⅳ・雪上実習)における授業評価

Student Evaluation in the Snow Sports Intensive Course

川田 儀博*, 千足 耕一**

Yoshihiro KAWADA* and Kouichi CHIASHI**

ABSTRACT

The purpose of this study is to investigate evaluation of the participants in the five-day Snow sports intensive course. The subjects are a total of 274 male and female students. To measure evaluation, the questionnaire including 16 items and free description is administered.

The following results are obtained:

- 1) 89.6% of participants evaluate Snow sports intensive course "very good" or "good". However it is lower than previous investigations in SCUBA diving intensive course.
- 2) The evaluation showed significant in 2 items between the periods.
- 3) The evaluation showed significant in 10 items and comprehensive evaluation between students' experiences. Inexperienced students show higher evaluation.
- 3) Students' opinions are described as "material 1". We need improvement in "living conditions" and "practical use of time".

Key words; Snow Sports, Intensive Course, Student Evaluation

I. はじめに

近年、大学の体育実技においては、学生が興味・関心を持ち能動的に取り組むことのできる授業を目的とした選択性の導入が積極的に行われ始めるなど、生涯スポーツとの関連を図るうえでの学ぶ意欲を育成しようとするところみがなされている²⁾。

国土館大学体育学部では専門野外教育として野外活動の実習を位置付け、冬季においては、スキーをその種目に採用し、実習を積み重ねてきている。また、平成11年度よりスノーボードを新たに

雪上活動のひとつとして種目にとり入れた。スキー実習においても従来からのアルペンスキーのみならず、スノーボードやショートスキーなどの雪上活動を半日ではあるが選択活動として実施できるようにプログラムを構成している。

千足ら¹⁾は、国土館大学における専門野外教育実習の授業評価データの蓄積と授業改善作業が必要であると述べている。本稿は、スクーバ・ダイビング実習における授業評価研究に続いて、専門野外教育のひとつである雪上スポーツにおける授業評価のデータを収集・分析することにより、ファカルティ・デベロップメントに役立てるための

* 国土館大学体育学部野外教育研究室 (Laboratory of Outdoor Education, Faculty of Physical Education, Kokushikan University)

** 十文字学園女子短期大学 (Jumonji College)

教育研究として位置付けられるものである。

Ⅱ. 研究方法

1. 調査対象者

調査対象者は、国土舘大学体育学部の3年次生のうち専門野外教育、「雪上実習」を履修した学生であった。実習は3期にわけて実施され、それぞれの参加者は、1期57名、2期103名、3期114名の合計274名であった。

2. 実習概要

(1) プログラム

実施時期は表1のとおりであり、1999年12月から2000年1月の3期にわけて実施された。実習地は、第1期：長野県志賀高原、第2期：北海道仁山高原、第3期：長野県栂池高原であり、現地宿舎に宿泊して4泊5日の日程で表2のプログラムに従って実習が実施された。実習の事前には、参加者に対する学内でのオリエンテーションを実施し、授業の内容や目的に関する説明を行った。実習内容は、スキー、スノーボード実習ともに共通して初日に技能レベルによる班分けを行い、4日目午後には、それぞれの種目における技能検定を含むプログラムである。実習は、班毎の経験・技術レベルに合わせた技能講習を午前・午後ともに各2時間程度を目安となるようにして実施した。また、VTR撮影と無線を利用しての講習もすべての学生が一度は経験できるようプログラムが構成されている。スノーボード実習では、スノーボードのみを5日間行うものであり、一方、スキー実習は、2日目から4日目までの間に選択活動（スノーボード、ショートスキー、ポールより1種目選択）を含むものであった。

(2) 班編成および指導者

1つの班は、5～10名程度の受講者によって編成され、それぞれの班に対して指導者が1名という体制で実習が行われた。スキー実習において実技指導を行った指導者は、全日本スキー連盟から公認されている指導員・準指導員の資格または上級の技能を示すバッジを所持していた。スノーボード実習においては、現地のスキー学校に所属するインストラクターと豊富なスノーボード経験を有する体育教員が指導にあたった。

3. 質問紙

授業評価票の質問項目は、千足らりの研究報告を参考に、内容を雪上スポーツにあてはまるよう修正した質問用紙を用いた。授業の目標、技術の習得、授業方法、授業の成果、学生自身の受講態度等に関する項目を含む15項目からなるアンケート、および授業の総合的評価（5段階評価）、学生の視点から見た自由記述を含むA4・1枚の調査用紙（参考資料1）を用いて行った。15項目からなるアンケートでは、それぞれの項目・内容について、非常にあてはまる（5点）、かなりあてはまる（4点）、どちらでもない（3点）、あまりあてはまらない（2点）、全くあてはまらない（1点）を与える5件法で回答を求めた。

4. 手続き

調査は、各開講時期ともに授業の成績とは全く関係がないことを説明し、最終日の閉講式終了後、集合調査法により実施した。調査用紙は、全て調査対象者に直接記入してもらう自記式質問形式であった。

統計処理にあたっては、市販の統計ソフトSPSS for Windows 10.0Jを用いた。

表1 1999年度専門野外教育、「雪上実習」コース概略

コース名	実施期間	受講者数	班構成	実習地
1期	平成11年12月22日～26日	57	7	長野県志賀高原一の瀬スキー場
2期	平成12年1月5日～9日	103	11	北海道仁山高原スキー場
3期	平成12年1月23日～27日	114	12	長野県栂池高原スキー場

表2 実習中の日程表

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
6:00		起床 朝の集い	起床 朝の集い	起床 朝の集い	起床 朝の集い
7:00		朝食	朝食	朝食	朝食
8:00	多摩校舎集合				
9:00	出発				
10:00		<実技> 雪上活動 ビデオ撮影 無線を含む	<実技>	<実技>	<実技> 総合練習
11:00	羽田集合				閉講式 昼食
12:00		昼食	昼食	昼食	
13:00					
14:00		<実技>	<実技>	<実技> 検定会	現地宿舎発
15:00	現地宿舎着				
16:00	レンタル貸し出し	フリー滑走	フリー滑走	フリー滑走	
17:00		入浴	入浴	入浴	
18:00	夕食	夕食	夕食	夕食	多摩校舎解散 (羽田空港解散)
19:00	開講式 <実技>	ミーティング ナイタースキー <フリー滑走>	ミーティング 検定説明会	ミーティング 検定発表会	
20:00	班分け		検定申し込み	合格手続き	
21:00	入浴				
22:30	消灯・就寝	消灯・就寝	消灯・就寝	消灯・就寝	

※但し、スノーボード実習では1日目のプログラムが異なり、14:00から実技を行い、夜はミーティングを行った。

参考資料1

授業に関するアンケート

このアンケートは、専門野外教育「雪上実習」をさらに良くしていくためのアンケートです。正しい答えや間違った答えはありません。また、成績評価とは一切関係ありませんので、ありのままを答えてください。

記入年月日：__年__月__日 種目：() 所属班：() 班
氏名：() 性別：(男・女)

1) 以下の設問について、右端の該当するところに○印をつけてください。

	全 く あ て は ま ら な い	あ ま り あ て は ま ら な い	ど ち ら で も な い	や あ て は ま る	全 く あ て は ま る
1. 楽しく授業を受けることができた	1	2	3	4	5
2. 指導者は学生の進歩に十分気を配っていた	1	2	3	4	5
3. 授業の開始前と比べて自分は随分上達したと思う	1	2	3	4	5
4. この授業によって、自分の期待していたものが満足された	1	2	3	4	5
5. 授業の内容は、いつも充実していた	1	2	3	4	5
6. 指導者は種目の内容について十分な知識を持っていた	1	2	3	4	5
7. 指導者は周到的な準備と熱意を持って指導を行った	1	2	3	4	5
8. 授業の進め方・時間配分は適切であった	1	2	3	4	5
9. 授業中、指導者と学生の間にはコミュニケーションが成立していた	1	2	3	4	5
10. 運動量は十分確保されていた	1	2	3	4	5
11. ゲレンデでの安全やマナーについて理解できた	1	2	3	4	5
12. 自己の能力水準が理解できた	1	2	3	4	5
13. 集団生活でのエチケットやマナーについて理解できた	1	2	3	4	5
14. 私は、この授業で真剣に学ぼうと努力した	1	2	3	4	5
15. 私は、この授業を他の学生に薦めたい	1	2	3	4	5

2) 専門野外教育IV「雪上実習」の総合評価は？(あてはまるところに○をつけてください)

5：非常に良かった 4：まあ良かった 3：普通 2：少し悪かった 1：非常に悪かった

3) この授業の良かった点を書いてください

4) この授業に改善すべき点があれば、書いてください。

スペースが足りない場合には裏面を使用してください。ご協力ありがとうございました。

Ⅲ. 結果と考察

1. 授業評価の結果

授業評価アンケートは、参加者全員の274名から有効回答が得られた。用意された質問項目15項目のうち、「4. この授業によって自分の期待していたものが満足された (3.87±.95)」が最も低い値を示し、「6. 指導者は種目の内容について十分な知識を持っていた (4.68±.62)」、「14. 私はこの授業で真剣に学ぼうと努力した (4.64±.60)」の2項目は、高い値を示していた。総合評価について「非常に良かった (5点)」から「非常に悪かった (1点)」を与え、数値化したところ、平均値は4.37±.81点であった。この数値は、これまで同様に総合的な評価を尋ねた本間ら³⁾、綿ら⁷⁾、野口ら⁵⁾、千足ら¹⁾の研究の値と比較してやや低調である。特に、国士舘大学学生を対象として行ったスクーバ・ダイビングにおける授業評価¹⁾と比較しても、明らかに低値を示した。この原因としては、種目による差異が考えられる。スクーバ・ダイビング実習においては、ほぼ全員が初心者であるため、統一したプログラムで新たな知識や技術について学ぶことができるが、雪上実習で

は経験レベルや技術レベルが一様でないということが影響していると考えられた。

種目により差が生じたことは、国士舘大学体育学部の集中実技における様々な種目において同様な授業評価に関する調査を実施し、今回の調査結果を検討する必要性もある。

授業の総合的評価を5段階で尋ねた結果においては、回答者の52.0%が「非常に良かった」とし、「まあ良かった」との回答37.6%を合わせると89.6%が良かったとしている。この結果のみをみると、本実習の評価は総合的に見て高かったのではないかと考えられるが、先の調査と比較すると評価が低くなっている。加えて、総合的評価に関して、「悪かった (5名:1.8%)」や「少し悪かった (2名:0.7%)」との回答も得られている。これらの回答を寄せた学生がなぜこのような評価をしたかということについての情報収集も必要であろう。

2. 実施時期と種目による授業評価の比較

授業評価アンケートの15項目および総合評価を尋ねた質問について、実施時期による差異がある

表3 授業評価の結果

項目	V1	V2	V3	V4	V5	V4+V5	平均値
1. 楽しく授業を受けることができた	1.1	1.5	5.8	34.7	56.9	91.6	4.45±.77
2. 指導者は学生の進歩に十分気を配っていた	1.5	1.8	8.8	32.6	55.3	87.9	4.38±.84
3. 授業の開始前と比べて自分は随分上達したと思う	1.1	3.3	8.1	39.0	48.5	87.5	4.31±.84
4. この授業によって、自分の期待していたものが満足された	1.8	7.7	17.9	46.5	26.0	72.5	3.87±.95
5. 授業の内容は、いつも充実していた	0.7	5.8	15.3	46.4	31.8	78.2	4.03±.88
6. 指導者は種目の内容について十分な知識を持っていた	0.4	0.4	4.7	20.1	74.5	94.6	4.68±.62
7. 指導者は周回な準備と熱意を持って指導を行った	1.1	0.7	10.6	25.5	62.0	87.5	4.47±.80
8. 授業の進め方・時間配分は適切であった	0.7	4.7	16.4	32.8	45.3	78.1	4.17±.92
9. 授業中、指導者と学生の間にはコミュニケーションが成立していた	0.7	3.3	14.3	32.0	49.6	81.6	4.26±.88
10. 運動量は十分確保されていた	0.0	2.9	13.6	34.1	49.5	83.6	4.30±.81
11. ゲレンデでの安全やマナーについて理解できた	0.0	0.7	10.6	36.9	51.8	88.7	4.40±.70
12. 自己の能力水準が理解できた	0.7	0.7	7.3	49.3	42.0	91.3	4.31±.70
13. 集団生活でのエチケットやマナーについて理解できた	0.0	1.1	10.6	40.5	47.8	88.3	4.35±.71
14. 私は、この授業で真剣に学ぼうと努力した	0.0	0.0	6.2	23.4	70.4	93.8	4.64±.60
15. 私は、この授業を他の学生に薦めたい	1.1	1.1	12.0	29.9	55.8	85.7	4.38±.82
Q. 専門野外教育Ⅳ「雪上実習」の総合評価は?	1.8	0.7	7.7	37.6	52.0	89.6	4.37±.81

V1: 全くあてはまらない V2: あまりあてはまらない V3: どちらでもない V4: かなりあてはまる V5: 非常にあてはまる
 数値は%, Qにおいては、V1: 非常に悪かった V2: 少し悪かった V3: 普通 V4: まあ良かった V5: 非常に良かった

かどうか検討するために、実施期間を要因とした3群間の一元配置分散分析を行った。表4は、各項目の平均値および標準偏差を示したものである。有意差があった項目は、「9. 授業中、指導者と学生の間にはコミュニケーションが成立していた：F(2)=3.07, $p<.05$ 」、「10. 運動量は十分確保されていた：F(2)=3.71, $p<.05$ 」の2項目であった。LSD法による多重比較では、「9. 授業中、指導者と学生の間にはコミュニケーションが成立していた」において、1期（スノーボード）が3期（スキー）に比べ有意に高く、「10. 運動量は十分確保されていた」では、1期（スノーボード）が2期（スキー）に比べて有意に高かった。指導者-学生間のコミュニケーションに関しては、スノーボード実習のほうが小人数グループで実習を行い、全体の参加人数も少なかったことが原因の一つであると考えられた。スキーとスノーボードの運動量については、スノーボード実習のほうがスキー実習に比べ運動量があると考えられたが、今後、運動生理学的なデータを収集して説明を行うことや、参加者の疲労に関するデータを示すことによって実証していく必要性もあろう。

次に、新たにとり入れた種目であるスノーボードと、以前から継続してきたスキーとの2種目間の比較も行った。平均値の差について検定を行った結果、「3. 授業の開始前と比べて自分は随分上達したと思う：t(270)=-2.07, $p<.05$ 」、「9. 授業中、指導者と学生の間にはコミュニケーションが成立していた：t(270)=-2.38, $p<.05$ 」、「10. 運動量は十分確保されていた：t(115)=-2.82, $p<.01$ 」、「11. ゲレンデでの安全やマナーについて理解できた：t(272)=-1.98, $p<.05$ 」、「14. 私はこの授業で真剣に学ぼうと努力した：t(105)=-2.09, $p<.05$ 」といった5項目においては、スノーボードの方が有意に高いという結果であった。「3. 授業の開始前と比べて自分は随分上達したと思う」という項目に関しては、スノーボード実習参加者のうち初心者と初級者の割合が非常に高かったことも要因の一つであると考えられる。「11. ゲレンデでの安全やマナーについて理解できた」について、スノーボード実習においては、全体でのミーティングや実習・実技の中でスノーボーダーのマナーや安全管理の方法について強調

表4 開講期による授業評価の比較：平均値±標準偏差およびF値

項目	1期 N=57	2期 N=103	3期 N=114	F値
1. 楽しく授業を受けることができた	4.54±.85	4.47±.80	4.39±.78	0.85
2. 指導者は学生の進歩に十分気を配っていた	4.40±.90	4.37±.80	4.39±.85	0.03
3. 授業の開始前と比べて自分は随分上達したと思う	4.51±.73	4.21±.87	4.29±.85	2.42
4. この授業によって、自分の期待していたものが満足された	4.04±1.00	3.75±.88	3.90±.97	1.80
5. 授業の内容は、いつも充実していた	4.16±.92	3.92±.82	4.05±.90	1.42
6. 指導者は種目の内容について十分な知識を持っていた	4.54±.78	4.78±.50	4.66±.61	2.77
7. 指導者は周到な準備と熱意を持って指導を行った	4.40±.88	4.50±.74	4.46±.81	0.30
8. 授業の進め方・時間配分は適切であった	4.16±.94	4.18±.83	4.17±.99	0.02
9. 授業中、指導者と学生の間にはコミュニケーションが成立していた	4.51±.78	4.24±.81	4.16±.96	3.07 *
10. 運動量は十分確保されていた	4.53±.63	4.17±.85	4.31±.84	3.72 *
11. ゲレンデでの安全やマナーについて理解できた	4.56±.63	4.38±.70	4.33±.74	2.07 *
12. 自己の能力水準が理解できた	4.23±.80	4.31±.61	4.35±.73	0.58
13. 集団生活でのエチケットやマナーについて理解できた	4.39±.75	4.37±.69	4.32±.72	0.24
14. 私は、この授業で真剣に学ぼうと努力した	4.77±.50	4.63±.59	4.59±.64	1.86
15. 私は、この授業を他の学生に薦めたい	4.56±.85	4.39±.59	4.29±.90	2.10
Q. 専門野外教育Ⅳ「雪上実習」の総合評価は?	4.46±.93	4.35±.73	4.35±.82	0.45

* $p<.05$

して説明したことが影響していると考えられた。「14. 私はこの授業で真剣に学ぼうと努力した」という項目について差が生じていることは、スノーボード実習参加者の学ぼうとする意欲のレベルがスキー実習参加者よりも高かったことを示す結果となった。

これらの結果をまとめてみると、スノーボードの集中実技はスキーに比べて高い評価が得られた項目が多くみられたという特徴がある。

これらの差が生じた原因の一つは、スノーボードが初めて実技種目として採用されたことが関連しているように思われる。加えて、スノーボード実習における参加者の経験レベルは相対的に低く、実習での体験が新鮮であった事が推察される。また、授業を実施したゲレンデの状況や天候も関連しているのではないかと考えられた。第1期と第3期は豊富な積雪量と比較的恵まれた天候のもとで実習を行うことができたが、第2期のスキー実習は北海道の仁山高原で行われたにもかかわらず、積雪量が少なく、期間中に大雨が降り、授業時間を縮小せざるを得なかったこと、あるいは気温が高いために雪面の状況が悪かったことなども

少なからず授業の評価に関連していると考えられた。

3. 受講学生の技能レベルによる授業評価の比較
授業の評価に関する結果を全体的に概観し、開講期と種目による比較を行ったが、これらで得られた結果や検討課題は、参加者の経験・技能レベルも大いに関連しているのではないかと予想された。そのためにそれぞれの種目における経験レベルを大きく3グループ(上級者・中級者・初級者)に分け平均値の差について一元配置の分散分析を行った(表6)。

授業の総合評価においては上級者が中級者・初級者に比べて有意に低いという結果が得られた($F(2)=4.20, p<.05$)。その他、15項目中「1. 楽しく授業を受けることができた： $F(2)=5.60, p<.01$ 」、「2. 指導者は学生の進歩に十分気を配っていた： $F(2)=7.12, p<.001$ 」、「3. 授業の開始前と比べて自分は随分上達したと思う： $F(2)=20.0, p<.001$ 」、「4. この授業によって、自分の期待していたものが満足された： $F(2)=4.12,$

表5 種目による授業評価の比較：平均値±標準偏差およびt値

項目	スノーボード N=57	スキー N=217	t値
1. 楽しく授業を受けることができた	4.54±.85	4.42±.74	-1.05
2. 指導者は学生の進歩に十分気を配っていた	4.40±.90	4.38±.82	-0.19
3. 授業の開始前と比べて自分は随分上達したと思う	4.51±.73	4.25±.86	-2.07 *
4. この授業によって、自分の期待していたものが満足された	4.04±1.00	3.83±.93	-1.47
5. 授業の内容は、いつも充実していた	4.16±.92	3.99±.87	-1.28
6. 指導者は種目の内容について十分な知識を持っていた	4.54±.78	4.71±.56	1.55
7. 指導者は周到な準備と熱意を持って指導を行った	4.40±.88	4.48±.78	0.68
8. 授業の進め方・時間配分は適切であった	4.16±.94	4.18±.92	0.13
9. 授業中、指導者と学生の間にはコミュニケーションが成立していた	4.51±.78	4.20±.89	-2.38 *
10. 運動量は十分確保されていた	4.53±.63	4.24±.84	-2.82 **
11. ゲレンデでの安全やマナーについて理解できた	4.56±.63	4.35±.72	-1.98 *
12. 自己の能力水準が理解できた	4.23±.80	4.33±.67	0.99
13. 集団生活でのエチケットやマナーについて理解できた	4.39±.75	4.34±.70	-0.42
14. 私は、この授業で真剣に学ぼうと努力した	4.77±.50	4.61±.62	-2.09 *
15. 私は、この授業を他の学生に薦めたい	4.56±.85	4.34±.81	-1.86
Q. 専門野外教育Ⅳ「雪上実習」の総合評価は?	4.46±.93	4.35±.78	-0.95

* $p<.05$ ** $p<.01$

p<.05]、「5. 授業の内容は、いつも充実していた：F(2)=12.13, p<.001]、「6. 指導者は種目の内容について十分な知識を持っていた：F(2)=4.02, p<.05]、「7. 指導者は周到な準備と熱意を持って指導を行った：F(2)=9.90, p<.001]、「8. 授業の進めかた・時間配分は適切であった：F(2)=6.51, p<.01]、「9. 授業中、指導者と学生の間にはコミュニケーションが成立していた：F(2)=15.78, p<.001]、「10. 運動量は十分確保されていた：F(2)=8.37, p<.001]の10項目において評価に差が見られた。初級者レベルにおける評価は非常に高く、上級者から評価は低いといえるであろう。この結果から、上級者から高い評価を得ることの困難さが明らかにされたと同時に上級者を満足させるための方策について、検討する必要性が明らかにされた。上級者が求める、より質の高い技術の獲得や、より深い楽しみの追求に向けて、指導者側が創意工夫を重ねることが今後の課題となろう。

4. 学生の自由記述による授業評価

集中実技に対する学生の意見について自由に記

述してもらった欄を設け、良かった点、改善すべき点、その他について記述を求めた。自由記述は参考資料1のようにまとめることができる。第Ⅰ期のスノーボード実習における良かった点では、「上達した」、「参加者の向上心がよかった」、「毎日充実していた」、「新しいスポーツにチャレンジできた」などの意見が多くあげられた。一方、改善すべき点においては、「指導者と生徒の比率」、「検定の取り扱いと待ち時間」、「班分けの要領」、「リフトの料金」、「食事の量」、「部屋の大きさに対する人数」に関する意見があった。第Ⅱ期のスキー実習においては、「検定を受けられる」、「雪上活動ができた」、「指導者が良い」、「楽しかった」、「新しい友達ができ」、「自由に滑る時間があった」などが良かったとされ、「消灯時間」、「適切なレベルでの班分け」、「希望どおりの雪上活動ができなかったこと」、「食事の量」、「実習費用」、「ゲレンデの雪質と積雪量」などが改善点としてあげられている。また、班によっては「もっと指導（個人的にアドバイス）してほしい」などの記述もあった。第Ⅲ期のスキー実習では、「検定をうけることができた」、「上達した」、「友達が増え

表6 技能レベルによる授業評価の比較：平均値±標準偏差およびF値

項目	上級者群 N=83	中級者群 N=28	初級者群 N=95	F値
1. 楽しく授業を受けることができた	4.23±.87	4.49±.62	4.60±.76	5.60 **
2. 指導者は学生の進歩に十分気を配っていた	4.13±1.00	4.39±.80	4.60±.64	7.12 ***
3. 授業の開始前と比べて自分は随分上達したと思う	3.85±1.00	4.43±.66	4.57±.69	20.01 ***
4. この授業によって、自分の期待していたものが満足された	3.63±1.04	3.92±.78	4.03±.99	4.13 *
5. 授業の内容は、いつも充実していた	3.76±.99	3.93±.77	4.36±.77	12.13 ***
6. 指導者は種目の内容について十分な知識を持っていた	4.55±.74	4.66±.63	4.81±.44	4.02 *
7. 指導者は周到な準備と熱意を持って指導を行った	4.27±.96	4.36±.80	4.75±.53	9.90 ***
8. 授業の進め方・時間配分は適切であった	3.96±.96	4.09±1.03	4.43±.69	6.51 **
9. 授業中、指導者と学生の間にはコミュニケーションが成立していた	3.98±1.02	4.14±.87	4.64±.58	15.78 ***
10. 運動量は十分確保されていた	4.16±.85	4.16±.87	4.57±.65	8.37 ***
11. ゲレンデでの安全やマナーについて理解できた	4.35±.77	4.38±.70	4.46±.65	0.65
12. 自己の能力水準が理解できた	4.31±.66	4.34±.61	4.27±.82	0.24
13. 集団生活でのエチケットやマナーについて理解できた	4.31±.70	4.35±.75	4.38±.69	0.19
14. 私は、この授業で真剣に学ぼうと努力した	4.53±.65	4.68±.55	4.71±.58	2.18
15. 私は、この授業を他の学生に薦めたい	4.30±.88	4.44±.71	4.40±.88	0.64
Q. 専門野外教育Ⅳ「雪上実習」の総合評価は?	4.16±.88	4.47±.63	4.46±.87	4.20 *

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

参考資料2 授業の良かった点・改善すべき点についての自由記述

(*印は複数回答)

Ⅰ期(スノーボード実習)

よかった点

- *基礎を教えてもらってよかった
- *教え方がとてもよかった,丁寧に指導してもらえた
- *指導者がとてもよかった
- *上達した,技能レベルが上がった
- ゲレンデと雪質が最高だった
- *仲間と楽しく滑る事ができた
- *参加者の向上心がとてもよかった
- *技能検定があったこと
- *たくさん滑れた
- *毎日充実していた・楽しかった
- 知らない人と友達になれた
- 宿舎がきれいだっ
- *新しいスポーツにチャレンジできた
- 男女一緒に滑るの楽しかった
- *先生とのコミュニケーションがとりやすかった
- これからもスノーボードを続けたいと思った
- 集団生活で規律・協調性が養われた
- *他のメンバーと競争し合いながら実習ができた

改善すべき点

- *もっと(毎日)ナイターをやりたい
- *リフト料金は実習費に含めてほしい,リフト料金を団体で安くしてほしい
- *部屋が狭い
- 検定を受ける参考として,自分のレベルをあらかじめ教えてほしい
- 指導者はもっと個人的なアドバイスをしてほしい(1班)
- もっと積極的に教えてくれる先生がよかった(2班)
- もっと一人ひとりを見てほしかった(2班)
- 難しい言葉で説明されるとわかりづらい(2班)
- もっと教えてほしい
- 班分けをもっと効率よくしてほしい
- 滑りをよくしたい人とハーフパイプやワンメイクをやりたい人に分けられるとよい
- *指導者を増やして班の人数を5人くらいにできるとよい(個人的な指導がしてもらえるので)
- アルペンとフリースタイルでは教え方も違うのではないか
- 実習費以外にお金がかかりすぎた
- 費用が安くなるとよい
- 年末という開講時期がちょっとつらかった
- 日程が長い
- *もっと滑りたい,もっと自由時間がほしい
- 検定のビデオは最初に見せたほうがよい
- *検定は自由参加にしたほうがよい
- *検定の時の待ち時間について考えてほしい
- 班のメンバーを進歩によって流動的にしてもよいのでは

スノーボードだけのゲレンデがあったら良い

もっとビデオ撮影を増やしてほしい

食事が足りない

- *クリスマスが重なっていたので,何かやりたかった

Ⅱ期(スキー実習)

よかった点

- *バジテストを受けられる点
- *スキー以外の物(ボード・ビッグフット)を体験できたところ
- *ビッグフットがとても面白かった
- *スノーボードが楽しかった
- *選択活動を設けたところ
- *技術についてのいくつかの発見があった
- スキーだけに集中できてよかった
- 最終日により雪質で滑る事ができた点
- *楽しかった
- *上達した
- *指導者がしっかり指導してくれた(2・6班)
- 無線を使つての指導が受けられた
- 高い技術を持った指導者から指導が受けられた
- 担当班の教員がとても丁寧に分かりやすかった(4班)
- *新しい友達ができ
- *ナイタースキーができた
- *自由に滑る時間があつたこと
- *指導者とのコミュニケーションがとりやすく,質問がしやすかった(6班)
- 班の先生がいい人でやっていて面白かった
- 先生・指導者が良かった。(6・9班)
- *北海道で周りがきれいだつた
- 雪の状態に応じて行動したところ
- みんなで仲良く滑る事ができるところ
- 同じような技術レベルで班をつくるのは良い

改善すべき点

- *わざわざ北海道に来たのだから,もっと雪のよいところがよかった
- *雪が少ない
- 時期がよくない
- 消灯時間を11時くらいにしてほしい,消灯時間が早い
- *適切なレベルでの班分けをしてほしい
- *個人的なアドバイスをしてほしい(1・3班)
- 自由時間が昼間にほしかった
- 雪上活動の時間が少し足りなかった
- 近くて,格安の所のほうが良い
- *北海道観光がしたかった
- 班の人数をもう少し少なくすると良い
- 食事が足りない
- もっと技術的な指導をしてほしい(3班)
- お金がもう少し安ければいいなあとと思った

- * もっとスノーボードの数を増やす
- * 昼休みがもう少しほしい
- * 授業時間中に滑る本数が少なく、ものたりなかった
- * 雪上活動で希望どおりの種目ができるようにしてほしい
- * スノーボードの時間をもっと増やしてほしい
- 食事時間の要領が悪い
- もっと自由時間がほしい
- もっと要領良く実習が進められると良い
- 事前連絡をもっとしたほうが良い
- 指導者によって活動量がまちまちなところ
- 検定代が一律で集められるところ
- 滑走中に止まらないほうが良い

III期 (スキー実習)

良かった点

- * 検定を受けることができること
- * 自由に滑る時間がたくさんあって良かった
- * 上達した
- カービングスキーの良い点があった
- * ゲレンデが広いスキー場で長い距離を滑れたこと
- * 知らない人と友達になれた
- * 自分のレベルがわかった
- * スキーを楽しめた
- * 級がとれた
- * スノーボードが楽しかった
- * ビッグフットなどの雪上活動をやれる点
- 授業中の雰囲気よかった (2班)
- * たくさん滑れた
- * 指導する先生が熱意を持っていてくれた (4・7班)
- * 先生の教え方がとても良かった (4・6・8・9班)
- 指導者がしっかり教えてくれて、コミュニケーションもとやすかった (11班)
- 学ぶことが多い実習だった
- * 仲間との交流を深める事ができた
- これからもスキーをやっていくと思った
- 班の人数がちょうど良かった
- スノーボードも基本から教えてもらった

- 友達と競い合いながら学ぶことができた
- * 無線やビデオが良かった
- 喫煙部屋と禁煙部屋を分けていたところ
- 指導者の熱心さが伝わった (10班)
- 指導者の先生が尊敬する先生だった (12班)
- ホテルが良かった (女子)

改善すべき点

- * 昼休み時間が少ない
- 集団生活を送る上でのマナーが悪かった (遅刻や消灯時間を守らない) 人がいた
- リフト降り場に集合するのは混雑するので良くないと思った
- * 食事をもっと良くしてほしい
- 個人へのアドバイスをもっとしてほしい
- * 貴重品の扱いについて考えてほしい
- 男子の部屋をもっと考慮してほしい
- * かかる費用を最初に全部払っておくようにしてほしい
- * 実習費が高かったこと
- もっとスノーボードやビッグフットなどを用意してほしい
- 雪質が悪くなかった
- 宿舎が悪くない
- 部屋が狭い
- 実習時間が長かったので休憩する時間がなかった
- ナイターの時間を少し多くしてほしい
- 自由時間にスノーボードやビッグフットが使えると良い
- 雪上活動の時間をもっと増やしてほしい
- * スノーボードをやりたいができなかったこと
- 無線をもう少し活用してもらいたかった
- 夕食時にミーティングをしてしまって、ナイターの時間を増やす
- * もっと自由時間 (フリー) を増やす
- 検定を希望者のみにしてほしい
- リフト券の割引券を最初から配ってほしい
- リフト券を買うのが面倒だった

た]、「広いゲレンデ」、「スノーボード・ビッグフットなどの雪上活動」、「指導する先生」、「無線やビデオの活用」、「仲間との交流」などが良かった点であり、「昼休みの休憩時間」、「食事」、「宿舎 (男子)」、「貴重品の扱い」、「実習費用」等に関する改善すべき点が記述された。雪上実習の各コースにおいて共通に認められる点は、「楽しい」、「技術上達」、「検定を受けるチャンス」、「指導者」、

「友達や仲間との交流」などの点であり、これらは継続的に意識をしていく必要があろう。無線・ビデオの使用や選択雪上活動の実施も良い点として認められており、これらを継続的に行っていくと同時に、今後も様々な工夫・改善がなされていくよう努めなければならない。一方、すべての実習において共通に改善すべきと考えられる点は、「実習にかかるすべての費用を事前に明示してお

くこと」、「食事や宿舎などの生活に関する事項」、「自由な時間を増やすための時間配分」である。これらの意見を参考に、改善すべきことがらを見極めていく必要があると考えられる。これまでもオリエンテーションなどで説明されている事項についても、今までよりも強調して説明を必要としていると考えられた。加えて、実施要項を充実させながら、参加者の理解を深めておくことも求められる。

Ⅳ. まとめ

本調査研究は、1999年12月～2000年1月に、3期にわたって行われた専門野外教育Ⅳ「雪上実習」を受講した学生を対象に、アンケート調査票を用いて授業評価に関する調査を行ったものである。その結果は、以下のようにまとめることができる。

1. 授業の総合的評価を5段階で尋ねた結果においても、回答者の52.0%が「非常に良かった」とし、「まあ良かった」との回答37.6%を合わせると89.6%が良かったとしている。この結果のみをみると、本実習の評価は総合的に見て高かったのではないかと考えられるが、先の調査と比較すると評価は低い値を示した。

授業評価アンケートの15項目および総合評価を尋ねた質問について、実施期による差異があるかどうか検討したところ「学生—指導者間のコミュニケーション」と「運動量」に関する項目において有意差があり、ともにスノーボードの方が高かった。種目による比較を行った結果、5項目において、スノーボードのほうが有意に高いという結果を示した。スノーボードの集中実技はスキーに比べて高い評価が得られた項目が多くみられたという特徴がある。

3. 経験・技能レベルによる授業評価の差異について検討した結果授業の総合評価においては上級者が中級者・初級者に比べて有意に低いという結

果が得られた。その他、15項目中の10項目においても評価に差が見られた。初級者レベルにおける評価は非常に高く、上級者から評価は低いといえるであろう。

4. 自由記述は参考資料1のようにまとめることができた。良かった点では、「検定を受けられる」、「楽しかった」、「充実していた」、「雪上活動が良かった」などがあげられた。一方、改善すべき点においては、「自由時間を増やすための時間配分」、「食事や宿舎(男子)などの生活関連事項」、「すべての費用を実習前に明示したり集めておいたりすること」といった事項があげられる。これらの点を改善することや、さらには改善作業を継続していくことによって、授業の成果や学生の満足度が高まると考えている。

引用・参考文献

- 1) 千足耕一・川田儀博・永嶋秀敏：スクーバ・ダイビング実習(専門野外教育Ⅰ)における学生による授業評価, 国士館大学体育学部付属体育研究所所報第18巻, 2000.
- 2) 福島邦男・野沢巖・平野智之：大学スキー実習における選択性導入の試み—平成9年度S大学教育学部集中講義「スキー」を事例として—, 日本スキー学会誌Vol. 9-1: 95-108, 1999.
- 3) 本間崇・千足耕一・布目靖則・南隆尚：正課体育スキー実習における学生による授業評価, 筑波大学体育センター大学体育研究第17号: 37-48, 1995.
- 4) 舩本直文・綿祐二：大学体育における学生評価2. 「保健体育講義」と「体育実技Bコース: マリン」の経年変化を中心に, 東京都立大学体育学研究第18号 61-67, 1993.
- 5) 野口和行・吉田泰将・佐々木玲子・村山光義：集中授業「アウトドアレクリエーション」における学生による授業評価—経年変化及び参加者が意識する効果について—, 慶応義塾大学体育研究所紀要, 第38巻第1号: 67-74, 1999.
- 6) 多田聡：冬季野外活動実習における授業評価と指導者の社会的勢力, 野外教育研究2-1: 21-29, 1998.
- 7) 綿祐二・舩本直文：大学体育における学生評価1. 「体育実技Bコース: スキー」における学生による授業評価, 東京都立大学体育学研究第18号: 53-59, 1993.